

2026 海員春闘 現場の声を要求に! 訪船や集会で組合員の意見を集約

2026年度の労働協約改定に向けて、1月6日～2月16日までを大衆討議期間として、北海道から沖縄までの全国各地で、現場組合員の声を意見集約した。今年の春闘は海運・水産産業、そして陸上の一般企業も含め、昨年から続く物価高騰から生活を守るための厳しい交渉が予想される。

大衆討議期間中は、全国各地での担当訪船や現場集会で、要求案に対する現場組合員の意見集約を図った。外航、大型カーフェリー・旅客船、内航二団体、全内航、港湾部門は「船員しんぶん」の号外を配布、水産部門などは各支部から要求案が現場に付された。労働協約改定要求には、各現場組合員の声・意見が反映される。

関東地方支部 ②

関東地方支部は1月6日から始まった大衆討議期間中、訪船や集会で外航・内航・沿海・港湾・水産それぞれの部門の意見を集約し、現場と執行部間の意思疎通と共通認識を図った。令和8年度労働協約改定要求案に対する主な意見・要望は次の通り。

沿海部門（主な意見）

- ▽昨年に引き続き、ベースアップは生活の要となるので、交渉を頑張ってほしい。
- ▽三年連続の満額回答でありながら、物価上昇に伴いその恩恵を感じづらい。若年層に魅力のあるベースアップをお願いしたい。
- ▽長期間改定されていない航海日当や旅費規定の日当などを改定していただきたい。

港湾部門（主な意見）

- ▽経験加給職別の頭打ちについて改善してほしい。
- ▽人材流出を防ぐために、待遇の改善を求める。中間層が流出しており、本船は若い人が多い。そのため、一部のベテラン乗組員に負担が強くなっている。
- ▽定年引き上げ、標令加算、退職金積み立ての改善を求めたい。

水産部門（主な意見）

- ▽標令55歳以降の経歴加算について引き続き改善のために尽力して欲しい。
- ▽ベアについて物価上昇に見合った賃金改定を願う。
- ▽宿泊料は実情に即した見直しが必要である。
- ▽食料金は物価高の影響を強く受けているので改善が必要。
- ▽手荷物運搬料については、基準を超過した分を支給するという文言を追加することができないか。

「海員だより」